

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	第 3 回姫路市国際戦略検討懇話会
2 開催日時	令和 8 年 8 月 2 1 日（金曜日） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 3 0 分
3 開催場所	姫路市役所 1 0 階 第 4 会議室
4 出席者又は欠席者名	〔構成員〕 高坂委員、手島委員、中農委員、福吉委員、夫馬委員 〔事務局〕 観光経済局：森局長 国際戦略室：石井室長、篠原主幹、村上主幹、柳田副理事、二宮課長補佐、 横田国際交流センター館長、定主任 関 係 課：観光コンベンション室 新井課長補佐、井上主任 産業振興課 井澤係長、坂元主事
5 傍聴の可否及び傍聴人数	3 人
6 議題又は案件及び結論等	・ 姫路市国際戦略素案について
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	1 開会 第3回姫路市国際戦略検討懇話会を開会する。
座長	2 出席者紹介 3 座長あいさつ 毎回皆さまから様々なご意見をいただいているが、すべてを姫路市の施策に反映できるわけではない。ネックになるのは財政状況と人員体制である。我々は委員として思いの丈を語るが、姫路市では予算などを考慮しながら現実の施策を立てていくことをご理解いただきたい。とは言え、「姫路らしさ」や委員の皆さまの貴重なアイディアが施策の中にしっかりと反映されるようなかたちで戦略をつくっていかねばならない。 4 協議 姫路市国際戦略素案について ・施策について
事務局	資料1（施策）説明
座長	まずは基本方針Ⅰの戦略1と戦略2について議論する。説明不足な点や、強化すべき部分、漏れている施策等はあるか。
委員	特に異論はない。
委員	資料16ページの施策体系図（案）について確認したい。基本方針Ⅰ～Ⅲは現在の姫路市国際化推進プランを継承しているのか。
事務局	近年の国内外及び本市における社会経済情勢の変化を踏まえ、現プランの基本理念から一歩進めて、本市国際化をより戦略的に展開していくため、現プランを吸収する形で新たに策定するものである。
委員	施策はうまくまとまっているが、これらの施策の実施主体をどの段階で組み込むのか、実現性はどうかというところを懸念している。 また、海外姉妹都市協定の目的や成果が見えてこない。今後、海外姉妹都市等との交流をどう発展させていくのかが気になるところである。
座長	実施主体については、「KPIの数値目標を達成するのは誰か」ということに関連する。例えば、留学生を増やすのは大学や専門学校の教育機関である。KPIの検討とあわせて考える必要がある。 姉妹都市等の取組の成果が見える化することは重要である。姉妹都市協定は3年程度で更新するのか。
事務局	姉妹都市協定等については年限は定めていない。相手方の社会経済情勢によって交流が縮小することもある。姉妹都市というつながりを継続しておくことが重要で、そのパートナーシップを糸口として、青少年の相互派遣等の都市間交流に取り組んでいる。

座長	兵庫県立大学とネブラスカ大学リンカーン校の間に協定を結び、学術・教育交流を続けているが、つながること自体に意味があると感じている。ただそのつながりが兵庫県民にどれだけ貢献しているか、姉妹都市のつながりが姫路市民にどういう効果があるかを見える化することはなかなか難しいと思う。
委員	海外姉妹都市との間で青少年の相互派遣を行っているが、短期間の海外生活を楽しんで帰ってくるだけではなく、姫路市が奨学金を出して長期間の海外留学を支援し、帰国後はその経験をいかして姫路市のために働くといったかたちがあれば大きな価値があると思う。 今後、インドなどアジアの人口が多い国とつながりを持つことが重要であると考え。アジア人は外国語の学習に非常に意欲的である。日本の介護士不足の現状を踏まえ、外国人の介護人材をもっと大切にしなければならない。 「なぜ外国人が姫路に来ないのか」という視点で考えるべきである。円安が進み、日本で稼いでも円の国際的価値が低いので海外での生活や仕送りは苦しい。どうすれば外国人が集まり姫路の力になるのか、よく考えていかなければならない。
座長	次に基本方針Ⅱの戦略3と4について議論する。
委員	施策についてシンプルでわかりやすくまとめられている。姫路市が戦略で方向性を示し、それによって市民や実施主体が共通認識を持つことは非常に重要である。市が様々な機関を巻き込んでコンソーシアムのような協力体制を整え、連携して施策を実施していくことが大切である。
委員	日本工科大学校の留学生（約500名）に対し、「姫路市を住みたくなるまちにするには何が必要か」というアンケートをとった。229名から回答が得られたが、姫路市での定住意向は約33%であり、その理由として1番多いものは「住み慣れていて安心だから」、次に多い理由は「専門学校で学んだ技術をいかせる企業がある」となっている。大阪や東京に行きたいと考える学生の理由は「姫路市は希望する職種の求人が少ない」「都市部に比べて給料が低い」など。「どのような支援があれば姫路市で働きたいか」という問いに対しては、戦略1から4に挙げられている施策の内容とほぼ同様であり、この施策体系で過不足等はないと捉えている。 行政、産業界、教育業界、市民にそれぞれの役割があり、この4者が連携・協働して様々な定着促進策を進めていかなければならない。産業界では商工会議所、教育業界では専門学校協議会等がそれぞれの業界の核となって動き、産・官・民・学による総合的な組織をつくることが重要である。
委員	外国人住民がPTAや地域の活動に積極的に参加することは非常に意義がある。役員になると大変なこともあるが、外国人住民にとっても良い経験になり、日本人にも良い影響があると感じている。また、仕事として地域活動に取り組めるような仕組みはどうか。公園の除草や駅の掃除のボランティア活動など、日本人と外国人の日常的な交流の機会をつくることも良いと思う。外国人住民が地域の一員として役割を担うことが大切である。
事務局	姫路市では年2回全市一斉清掃を実施しており、そこで外国人住民と地域の人が雑談したり、地域の祭りに誘ったりという交流がある。非常に良いきっかけであり、外国人住民へのPRを進めていきたい。

座長	インクルージョン（包摂）の視点をしっかりと持って共生について考える必要があると思う。
委員	外国人雇用管理指針の改正で、外国人労働者の日本社会との共生を促すことが事業主の努力義務とされたが、地域活動への参画が共生へのひとつの道ではないかと感じている。指針に基づく雇用管理体制の中に地域活動を位置づけるよう地元の企業に自発的に促していくといったことも考えられる。 また、スポーツという切り口も重要である。FIFA ワールドカップのときなど、東京では在留外国人と地元住民と一緒にスポーツを観戦し、お祭りのように盛り上がっている場面をよく見かける。世界選手権やアジア大会などを上手く活用し、スポーツを通じた国際交流の機会をつくることができれば良いと考える。
座長	次に、基本方針Ⅲの戦略５～７について協議する。
委員	資料 23 ページの「インバウンド誘致促進」について、JETRO 神戸では、地域に対する愛着を持って取引していただけるよう、日本酒の海外バイヤーを姫路市に招聘した際に、姫路城や酒蔵を案内し、姫路の魅力を体験していただく取組を行っている。インバウンド誘致はビジネスインバウンドも含めて考えることが重要である。
委員	資料 23 ページに「世界から選ばれるコンベンション都市の実現」とあるが、これは非常に重要である。アメリカのサンアントニオ市は何もない砂漠のまちであったが、地下水を汲み上げて小川をつくり、水と緑、商業空間（コンベンションセンターや大型ホテル等）を見事に調和させたまちづくりを進め、現在では全米有数の国際観光・コンベンション都市となっている。姫路市が世界から選ばれるコンベンション都市になるためには、姫路城をいかした本気のまちづくりを進め、都市の魅力やブランドをつくりあげなければならない。 ・ KPI について
事務局	資料 1（KPI）説明
委員	各施策を遂行していくためには資金と人材が不可欠である。まず資金面では、国の補助金を取ってくることや民間の資金を活用していくことが重要であり、自治体の本気度を国や民間に示す指標が KPI である。地域未来戦略においても国際的競争力のある産業の育成が重視されており、産業に関連した KPI を設定することが非常に重要である。次に人材面では、地元の企業や団体、人を巻き込めるかどうか重要なポイントであるが、今回の資料の KPI 案は外から人を呼び込む方に主眼を置いている。市民や地元企業がこの KPI 案を見ると、どんどんグローバル化が進んで自分たちが飲み込まれるようなネガティブな錯覚を感じるかもしれない。目指す姿は姫路市民がグローバル人材になり、外国人を受け入れて共に豊かな共生社会をつくっていくという状態であり、市民や地元企業に関する KPI の設定を検討してほしい。 あくまでも 1 つのアイディアであるが、姉妹都市の大学に、姫路をフィールドとし、姫路の魅力について研究していただくということも考えられる。海外の視点での姫路に関する研究や海外の大学による魅力の発信は、グローバル社会における姫

委員	路の魅力や伸ばしていく分野を再発見できる機会にもなるし、姫路市の国際化に大きく貢献すると考える。 「市内外国人留学生数」の目標値が令和 13 年度までの 6 年間で 37 人増の 390 人というのは少ない印象を受ける。姫路市の調査では令和 7 年度で留学生数は既に 1,045 人となっており、KPI の数値の設定根拠を示す必要があると考える。「海外姉妹都市等との交流事業数」とあるが、イベント数なのか。経済交流や人的交流など、姉妹都市交流の目的から KPI を考えなければいけない。 資料 16 ページの施策体系図で KPI と戦略、施策が整理されているが、例えば「市内外国人留学生数」という KPI に対応する施策の記載が無い。受入体制の充実だけでは留学生は増えない。留学生への奨学金や専門学校による留学生募集への支援等があれば増えるであろう。KPI の達成に直接つながるような施策を検討する必要がある。 「外国人材確保・定着の促進」「高度外国人材の活用・確保」に対しては、外国人を雇用する企業数や外国人労働者数といった KPI が必要ではないか。 「世界から選ばれるコンベンション都市の実現」を目指すのであれば、サンアントニオ市などの世界的なコンベンション都市と姉妹都市の協定を締結するなど、姫路市が掲げるビジョンに沿って戦略的な姉妹都市交流を進めていくことが有効である。
委員	産業政策における一つの視点としては、今は何をするにも電源競争である。日本全体で電気が足りない。企業の誘致を進めるにあたっては、電源という視点で新たな施策を考えることも必要である。 また、兵庫県が気候変動への対策として高温耐性品種への転換などを進めているが、商工業だけでなく、農林水産業における先進的な取組なども戦略に記載して PR していくことが重要である。「姫路市はこの分野で先進的な取組を進める」というアクションを戦略の中で明確に示すことが、海外企業の誘致や国予算の確保につながっていく。
事務局	5 その他 第 4 回の会議でパブリックコメント案を提示する予定としているが、本日多くの提案をいただいたので、第 4 回会議の前にオンライン等でご意見をいただく機会を設けたい。
事務局	6 閉会 第 3 回姫路市国際戦略検討懇話会を閉会する。